

小学校 体育科学習指導案

スポーツ健康課学校体育係担当

1 対象学年 第 3 学 年

2 単 元 名 「基本の運動」(器械・器具を使つての運動遊び)

3 単元設定の理由

今日の受験戦争の過熱化、いじめや不登校の問題、さらに学校外における社会体験の不足など、豊かな人間性をはぐくむべき時期の教育に様々な課題が認められる。

体育科においては、日常生活において、運動遊びなどの体を動かす体験の減少、運動に興味をもち活発に運動する者とそうでない者に二極化している状況、また、生活環境の乱れやストレス及び不安感が高まっている現状を十分考慮し、「心と体を一体としてとらえ」て指導することを重視している。

このような状況において、生涯にわたり積極的に運動に親しんでいく一つの基盤として、全ての児童が体を動かす楽しさや心地よさを体験する機会を持つことが重要となる。

そのためにも体と心をはぐし、リラックスできるような運動を多く体験することで、運動を好きにさせる。」ことが必要となる。

そこで本単元においては、児童にとって楽しい「運動遊び」としての特性をより明確にし、ながら「仲間との競争やいろいろな課題への取組など」を「楽しく行う」ことをめざす。

これらの指導においては、児童がよりリラックスしやすくするために伴奏音楽などを取り入れ、楽しく授業を展開する必要がある。

4 単元の目標(観点別)

- 器械・器具を使った運動遊びを、いろいろな課題への取組などを通して楽しく行うとともに、体の基本的な動きや各種の基礎となる動きができるようにする。
- 順番やきまりを守って仲よく運動したり、運動する場所や器械・器具の安全に気を付けながら行うことができるようにする。
- 競争や運動の仕方を知り、活動を工夫することができるようにする。

5 指導計画(10時間)

時間 分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	オリエン テーション	「体ほぐしの運動」の趣旨を生かした運動								
10		器械・器具を使つての運動)							○マット・跳び箱を使って	
20		○マットを使って いろいろな動きに挑戦				○跳び箱を使ってまたぎ越しや 前転がりに挑戦			技をつないでみよう	
30		「体ほぐしの運動」の 趣旨を生かした運動				・支持でまたぎ越し ・支持でのかかえ込み 跳び越し～前転がり			・支持またぎ越し～前転がり ・支持でのかかえ込み 跳び越し～前転がり	
40		(機器・器具を使わない運動)				・支持でまたぎ越し ・支持でのかかえ込み跳び 越し 跳び箱の上での前転がり			跳び箱の上での前転がり ～着地後 後ろ転がり	

6 学習指導の展開（学習活動と教師の支援活動8／10）

	学 習 活 動	教師の留意事項及び支援
導 入	1 「体ほぐしの運動」の趣旨を生かした運動 ○ マットで転がろう…マットをたくさん敷いておく。 (マット間には空間を持たせておく。) ・丸太転がし…マットから落ちないように転がろう ・跳び移り……島(マット)から島(マット)へ跳び移ろう ・じゃんけんゲーム…島と島でじゃんけんゲームをしよう (負けたら相手の島へ跳び移ろう)	○始めは、教師がリーダーになって、一斉に進めてもよい。 慣れてきたら、グループごとに進めさせたい。 ○ジャンケンゲームでは、島(マット)が満員になるにしたがって、お互いが助け合えるよう声掛けをする。 (手をつなぐ、支え合うなど)
展 開	2 本時の学習内容を確認する。 今できる技やもう少しでできそうな動きに取り組み、二つの動きを連続する。	○今までのマット・跳び箱の学習を発展させ、できる動きをつないで連続させることを確認する。 (児童の興味を膨らませる。) ①動きの正確性 ②動きの発展性 ③連続の工夫 (関意)
	○めあて1の確認 跳び箱やマットを使って、今できる動きで楽しもう	○いままでの学習を生かして、跳び箱・マットを自由に使い、できる動きで楽しませる。 (関意)
	○グループに分かれて、めあて1に取り組む	○安全に注意して動きを楽しむ。 (意 態)
	めあて1の振り返り (自己評価を中心として、グループ内での相対評価も取り入れる。)	○めあてを振り返り、自己評価を行わせる。 ○同グループ内で、お互いの動きへの思いを出し合う (関思 態)
	○めあて2の確認 跳び箱からマットへ動きを連続してみる。つなぎを工夫しながら、動きを連続する。	○新たな動きへの挑戦や動きの正確性及び動きを連続させるための工夫が必要であることを伝える。 (思 関 意 態)
	・支持またぎ越し～着地後 前転がり ・支持でのかかえ込み跳び越し～着地後 前転がり ・跳び箱の上での前転がり～着地後 後ろ転がり	
	○グループに分かれて、めあて2に取り組む	○安全に注意して新しい動きや連続した動きを工夫させる。 (意 思 判 態)
ま と め	めあて2の振り返り (自己評価を中心として、グループ内での相対評価も取り入れる。)	○めあてを振り返り、自己評価を行わせる。 ○同グループ内で、お互いの動きへの感想を出し合う (関 意 思)
	3 「体ほぐしの運動」の趣旨を生かした運動 ・円形コミュニケーション ・2人組で、腕や足をぶらぶらさせる。	○お互いの体に触れながら、友達の心臓の音を力を抜いて聞く
	4 学習のまとめと次の学習予定の確認 ○めあて2について数名(各グループで)報告する。 (時間により、人数を調整する。) ○次時の学習内容を確認する。	○友達のめあてや動きを参考にするためにも、毎時間異児童の報告を聞けるよう仕組む。 ○オリエンテーションをもとに、子ども同士で次時の学習内容について確認させる。 (思 関)